

コロナ対策・種子条例を

島根県農民連が県に要請

島根県農民運動連合会は7月16日、県に新型コロナウイルス感染症の影響による2020年度産の米価下落対策や肥育、子牛生産農家に対する経営支援、農家への持続化給付金の周知、県種子条例の制定を要請しました。

日本共産党の尾村利成、大国陽介の両県議、松江市議団らが同席。

長谷川敏郎会長、河津清、古藤一郎の両副会長、田食道弘事務局長（党奥出雲町議）ら役員6氏が

実情を訴えました。

長谷川氏は「新型コロナウイルスの外出自粛で外食などの業務用米の需要が急速に縮小し、19年度産米の価格が暴落している」と指摘。米価下落の動きに対する県の対策を求め、「コロナの影響で一人の離農者も出さないよう農家に対する強力な支援を講じてほしい」と要望。

応じた農畜産課の中尾幸義課長、同課・農畜産室の加地紀之室長らは「肥育農家の新たな販路

結婚記念日に「結婚」について考える

冒頭から私事ですが先日、私たち夫婦の結婚記念日で丸18年を迎えました。久しぶりにゆつくりランチをしながら

ら、おたがいに感謝と労をねぎらいました。

あらためて結婚とは何のための、誰のためのものなのか考えさせられます。先月、広島高裁で行われた選択的夫婦別姓を求める裁判を傍聴。原告の恩地いづみさんのご自身の体験とあわせて「同性強要は憲法違反だ」との法廷での陳述や、報告集会での当事者たちから通称使用の不都合など様々な実態を伺いました。思い起こせば昨年の参議院選挙の際、党首討論の場で「選択的夫婦別姓を認めるか」と問われ、自民党の安倍総裁だけが手を挙げず、「(同制度は)経済成長とは関わりが

拡大のための取り組み支援として1頭1万8千円の定額支援を実施している」と説明。種子条例の

少人数級推進、県学力調査中止をゆきとどいた教育をすすめる会が県教委に要請



ゆきとどいた教育をすすめる島根の会（小松雪乃代表）は7月20日、県教育委員会に対し、コロナ禍でも子どもたちや教職員がゆとりをもって学び健やかに学校生活を送ることができるとの対策を要請しました。（写真）

日本共産党の尾村利成、大国陽介の両県議、舟木健治県党労働部長、橋祥朗、吉儀敬子の両松江市議が同席しました。

制定については「今年度中に条例が策定できるような作業を進めている」と答えました。

「結婚」について考える

「結婚」と述べたことについて口が塞がりませんでした。比例中国ブロック選出の自民党の杉田水脈衆議院議員は「(同性カップルは)生産性がない」と言い放つたのに対して、今年1月の本会議で野党議員が質問中、夫婦同姓を望まない人がいると述べたのに対して「だったら結婚しなきていい」とヤジを飛ばしたことも記憶に新しいところだ。

こうした政権の下で、今各地で進められている「官製婚活」(国や自治体が行う婚活支援事業)は本場に問題だらけです。そもそも婚活支援の出発点が「日本では人口減少が進んでいる」から始まり、若い女性たち

を対象に「卵子の老化」だの「妊娠適齢期」だの不安をかきたてながら、20代での結婚・妊娠を強力に推進しています。一方で、結婚の様々な形や性の多様性、妊娠や出産に関する自己決定権などの視点はほとんどなく、個人の尊厳と幸福追求の位置づけが完全に欠落。今日においてもあいかわらず彼らにとって結婚は「お国のために産めよ殖やせよ」のためでしかないようです。

最後は、いま最も世間をにぎわしている巨額買収事件で逮捕のあの夫婦。何のための結婚なのかとはもはや問う気もありませんが、とにかく一日も早く夫婦「相辞職を。(7月25日記)

地域の話題

医療ケア児環境整備を後藤議員が要望

後藤議員「医療的ケアが必要なお子さんの保護者から「保育園に入園し、集団の中で成長させたい。仕事にも復帰したい」との相談を受けた。市は「障がい等のある特別な支援が必要な子どもを保育所、幼稚園、認定保育園で受け入れ、それぞれの子どもが発達に応じた支援を行う」という事業計画を策定している。医療的ケア児の受け入れに関する協議会の設置を求める。

子ども未来部長へ受け入れを進めていくためには、保健、医療、福祉等の関係機関と連携し受け入

め、感染拡大の状況をみて分散登校などの対応をする。教職員の業務負担軽減のため小中学校にスクールサポートスタッフ、県立学校に業務アシスタントの配置をすすめてほしい。感染拡大がすすまなければ県学力調査は予定通り実施したい」と答えました。

大田 鳥井・和江海岸のゴミ撤去実現

「鳥井のつどい」を開催したところ、参加者のみなさんから海岸ごみの話が出ました。早速、大田市土木課に伝え、3月に鳥井・和江海岸の境界部の排水口付近に溜まっていたプラごみ、石塊の除去が実現

飯 伊藤議員が要求

しました。(「こんにちは！大西おさむです」より)

飯 伊藤議員「これからの災害時には、新型コロナウイルス対策をしながらの避難が必要だが、どのように対応するのか。また、現在の町指定避難場所を拡充する必要があると考えるが、本町の対処方針を伺う。」

山崎町長「健康状態を確認し、発熱・咳症状の人は、町の指定避難場所スペースを設け、避難してもらおう。感染防止用のマスク、消毒液の追加調達をすすめている。避難場所としては宿泊施設へお願いし、新たに県中山間地域研究センターをお借りできることとなった。(伊藤好晴の議会報告」より)



JCPリモート講座(インターネットでつないで学習・交流)

ジェンダー平等～学ぼう、話そう～

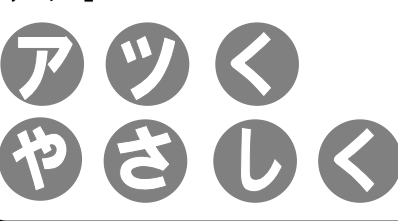
8月16日(日) 14時～16時 (開場 13時30分)

松江会場: 松江テルサ 4F 大会議室 大田会場: あすてらす 3F 研修室1

- おはなし 坂井 希さん (党ジェンダー平等委員会事務局長)
- 参加費 300円 (会場内に子どもコーナーあり)

主催: 島根県日本共産党女性後援会

大平よしのぶ



前衆議院議員

アツク やさしく